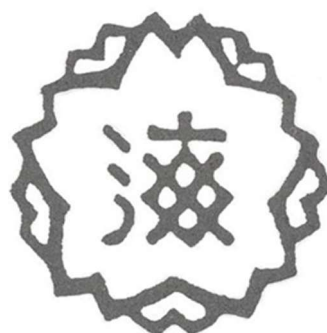


海田小学校校舎建替基本構想(素案)



海田町教育委員会

令和 8 年●月

海田小学校校舎建替基本構想 目次

1	海田町立学校の校舎建替の基本理念	1	
2	海田小学校の概要等	3	
3	海田小学校本館の現状と課題等について	5	
4	海田小学校本館以外の学校施設の現状と課題等について	7	
5	基本構想策定の前提条件	8	
6	海田小学校周辺のまちづくりの方向性	10	
7	海田小学校の沿革等	10	
8	令和8年度海田小学校 学校経営計画等	11	
9	海田小学校の児童数・学級数の将来見通し	13	
10	学校職員、保護者等からの校舎建替に係る意見	15	
11	児童からの校舎建替に係る意見	20	
12	海田小学校校舎建替に係る整備コンセプト・整備方針	24	
13	想定スケジュール	27	
【 参考 】			
	海田小学校校舎建替検討部会名簿	28	
【 参考文献 】			28



1 海田町立学校の校舎建替の基本理念

海田東小学校校舎建替基本構想（令和6年8月）において、今後、建替えを控えている海田小学校も含め、町立学校の校舎建替について統一感をもって進めるため基本理念を整理した。海田小学校の校舎建替においても、この基本理念をベースに建替計画の具体化を図っていく。

国の教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）において、公立学校の施設整備にあたっては、安全・安心を確保しつつ新しい時代の学びを実現するため、教育環境向上と老朽化対策の一体的な整備を計画的・効率的に進めるとともに、災害時には避難所ともなることから防災機能の強化を図ることが求められている。

また、令和4年3月に文部科学省が公表した「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告）」では、一人1台端末環境のもと、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実等に向け、新しい時代の学びを実現するために必要な学校施設の在り方が示されている。

令和3年3月に策定した第5次海田町総合計画（以下、「総合計画」という。）では、基本施策の一つとして「学校教育の充実」を掲げ、新しい時代に求められる資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指し、幼保小連携教育、小中一貫教育のさらなる充実と教育のICT化等の教育環境の整備に取り組む方針を示している。この方針をもとに策定した海田町学校施設長寿命化計画において、学校施設の目指す姿を整理している。

海田町学校施設長寿命化計画で掲げる学校施設の目指す姿

①安全・安心で快適な学校施設

学校施設は、児童生徒の学習・生活の場であるとともに、災害時には住民の避難所としての役割を果たすことから、防犯対策・防災対策などの充実を図ることが求められる。

そのため、施設のバリアフリー化、トイレの洋式化、空調設備の整備、施設・設備の適切な維持管理等を通じて、児童生徒が安全・安心に学べ、防災拠点として誰もが快適に利用できる学校施設を目指す。

②新しい時代に求められる資質・能力を育む学校施設

ICT環境の充実、読書活動の環境づくりなど、教育環境の充実を通じて、児童生徒が新しい時代に求められる資質・能力を育むことができる学校施設を目指す。

③地域に開かれた学校施設

地域住民等と連携した地域学習などを通じ、児童生徒が主体的、実践的に学ぶ一方で、地域における生涯学習の一翼を担うなど、地域に開かれた学校施設を目指す。

また、令和7年12月に策定した第5次海田町総合計画後期基本計画では、「充実した教育環境の整備」を掲げ、海田東小学校と海田小学校の早期建替に取り組むこととして

いる。

さらに、令和8年2月に策定した海田町教育大綱では、「海田町の歴史的経緯や地理的条件など、海田町の特徴や海田町の良さを生かした教育を推進する」としており、この基本的な考え方をベースに、「学校教育」においては、『夢と志を持ち、学び続ける』児童生徒の育成」を教育施策の方向性の一つに掲げている。この方向性を踏まえ、教育委員会において教育施策の実施方針「夢未来ビジョン」により具体化した上で、各小中学校において、学校や地域の強み・特長を踏まえた教育活動を展開している。

教育活動を展開する基盤である学校施設は、デジタル機器の活用などにより、学びのスタイルが多様に変化する中で、校内のあらゆる空間が子供たちの学びの場となる可能性を秘めている。こうしたことから、今後の校舎建替にあたっては、学校施設全体を学びの場と捉え、子供たちにとって、魅力的で居心地の良い空間（居場所）を創り、こうした空間で学校生活を過ごす中で、子供たちがいきいきと楽しく学ぶことを通じて「明日また行きたい学校」と思える学び舎としていく。

また、学校施設は、地域コミュニティ形成の核となるなど、学校周辺のまちづくりの拠点としての役割を担う象徴的な施設でもある。こうしたことから、地域の人も集う場として、これまで地域と共に育んできた学校の伝統や歴史を継承しつつ、これからも「地域と共に育つ学校」として、将来にわたって地域の誇りを育む「地域の宝」となるような学び舎としていく。

《基本理念》

「つくる」…… 子供みんなの居場所をつくる（明日また行きたい）

「つづく」…… 学校の伝統や歴史がつづく（継承する）

「つながる」… 地域の未来につながる（誇りを育む）

2 海田小学校の概要等

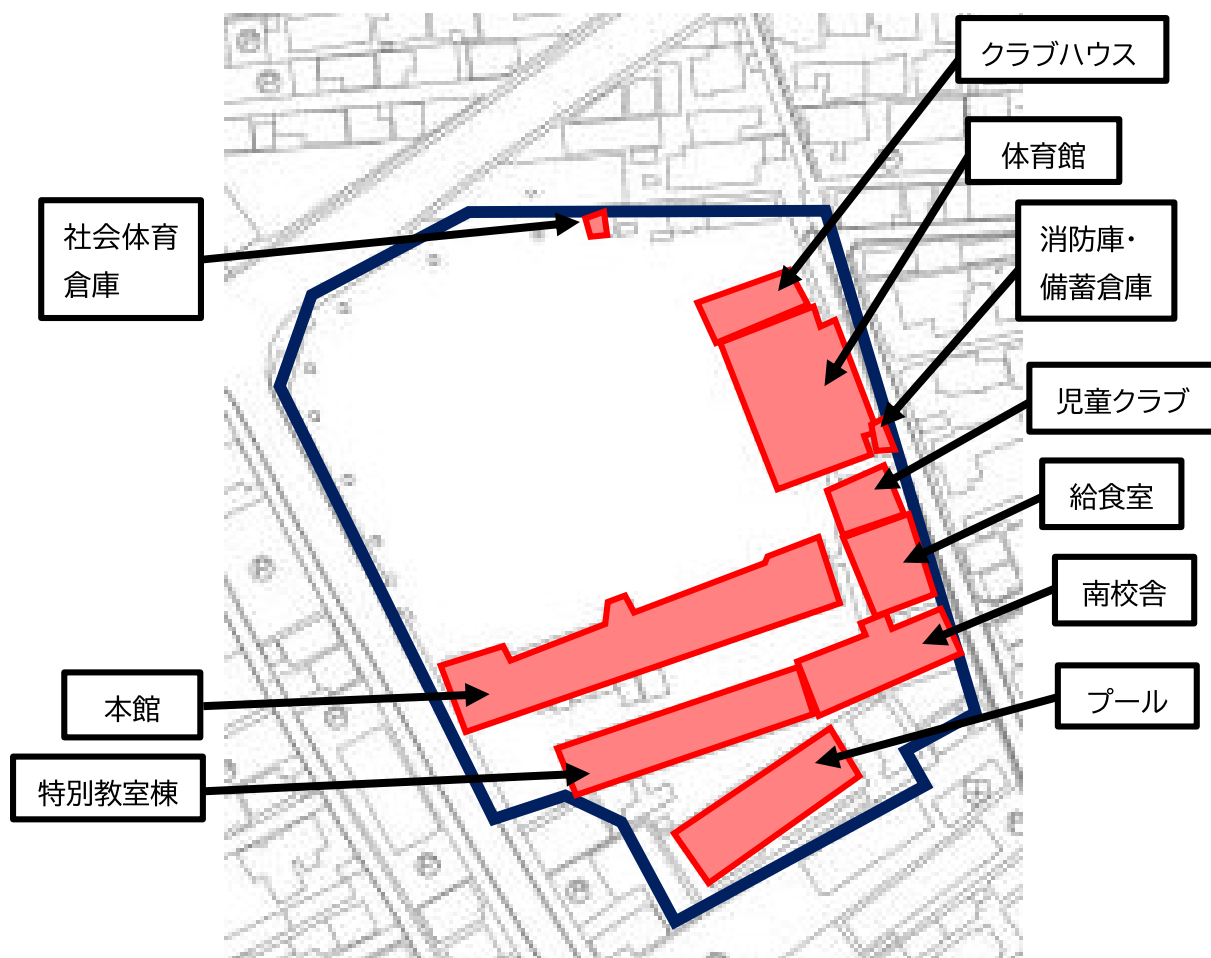
(1) 学校名

海田小学校（所在地：広島県安芸郡海田町昭和町 2-55）

(2) 敷地内建物概要

施設名	建築年度	構造 階数	延床面積
本館 (管理普通教室棟)	昭和 40 (1965) 年 昭和 41 (1966) 年	RC 造 3 階	3,114 m ²
特別教室棟	昭和 39 (1964) 年	RC 造 2 階	1,122 m ²
南校舎 (普通教室棟)	昭和 43 (1968) 年 昭和 44 (1969) 年	RC 造 3 階	1,106 m ²
給食室	平成 15 (2003) 年	S 造 1 階	252 m ²
体育館	昭和 51 (1976) 年	RC 造・S 造 2 階	1,210 m ²
プール	平成 26 (2014) 年	RC 造 1 階	附属棟部分 114 m ² 〔 プール施設全体 〕 1,361 m ²
クラブハウス	昭和 56 (1981) 年	SC 造 1 階	160 m ²
社会体育倉庫	昭和 51 (1976) 年	S 造 1 階	7 m ²
児童クラブハウス	平成 15 (2003) 年	S 造 1 階	164.80 m ²
消防庫・備蓄倉庫	平成 14 (2002) 年	S 造 2 階	33.62 m ²

【施設配置図】



【施設外観】



【本館】



【特別教室棟】



【南校舎】



【給食室】



【体育館】



【プール】



【プール附属棟】



【児童クラブハウス】



【クラブハウス】



【社会体育倉庫】



【消防庫・備蓄倉庫】

3 海田小学校本館の現状と課題等について

(1) 海田小学校本館老朽化詳細調査の結果について

令和4年度、海田小学校本館について、老朽化に伴う対策として長寿命化改修、建替えのどちらかを判断するため老朽化詳細調査を実施した。その結果を次に示す。

ア 構造耐力、健全度、立地条件の評点により、耐力度は、4,500点以下（10,000点満点）であった。

	海田小学校本館	
	S40 建築部分	S41 建築部分
耐力度（10、000点満点）	4,368点	4,368点

内訳	構造耐力（100 点満点）	100 点	100 点
	健全度（100 点満点）	48 点	48 点
	立地条件（1.00 点満点）	0.91	0.91

〔判定要素〕

構造耐力：保有耐力、コンクリート強度、層間変形角、基礎

健全度：健全度、鉄筋腐食度、中性化、躯体のひび割れ

立地条件：地震係数、地盤種別、海岸からの距離

イ 耐力度点数が 4,500 点以下となった場合、構造上危険な状態にある建物（危険建物）として、学校施設環境改善交付金（危険改築）の対象となる。

(2) 老朽化詳細調査の結果を踏まえた老朽化対策の方向性

ア 耐震性

耐震改修により構造耐力は確保され、地震動に対する倒壊又は崩壊の危険性は低い。ただし、耐震改修における評価では、基礎の影響は考慮されていない。

基礎構造が直接基礎となっているため、液状化による建物崩壊の可能性は低いものの、液状化に伴う不同沈下（地盤の一部だけが傾斜し、建物が不均一に沈下する現象）等の危険性が残る。

イ 躯体等の状況

躯体及び仕上げ、設備機器、設備配管等の劣化に関しては、部分的な改修が行われているが、経年劣化が著しい。

特に、コンクリートについては、鉄筋錆に伴う剥落が各所で確認され、危険な状態と判断される。今後も、鉄筋錆によるコンクリートの剥落の進行が推測される。

対策として、コンクリートの再アルカリ化工法等が考えられるが、完全に回復できるわけではなく、経年とともに同様な現象が生じる。再アルカリ化工法を行う場合、壁・床の仕上げはすべて撤去・復旧が必要となり、費用面の負担は大きくなる。

ウ まとめ

今後、長寿命化改良工事を行ったとしても、コンクリートの中性化やコンクリートのひび割れ等による鉄筋錆とコンクリートの剥落等の劣化は、完全に抑制できるとは考えられない。

経年が 60～61 年であり、長寿命化改良事業の補助制度による経年 40 年、及び法定耐用年数の 47 年も大きく超えており、経年劣化が著しい。

長寿命化改良工事を本建物に行った場合、長寿命化改良工事から 30 年以上の継続利用となり、新築時からの経年が 90～91 年となる。

その場合、30 年後に躯体そのものの健全性は大幅に低減されており、再度の長寿命化改良工事には耐えられないと推測される。

将来にわたって長く使用を考える場合は、長寿命化改良工事よりも建替えの方がより効率的であると考えられる。

なお、建替えまでには一定の期間を要することから、建替えまでの間も、外壁劣化箇所の修繕など、必要な安全対策を行っていく。

4 海田小学校本館以外の学校施設等の現状と課題等について

(1) 特別教室棟について

特別教室棟（昭和 39 年建築）は築 60 年以上の建物であり、図書室や理科室、図工室、音楽室等の特別教室群で構成されており、普通教室棟としての機能を有する本館・南校舎と渡り廊下によって接続している。

特別教室は全学年を通じて頻繁に利用されている一方で、普通教室からの動線が長く、教室間の移動に課題がある。また、教職員を対象としたアンケート調査において、「普通教室と特別教室が物理的に分断されており、教育活動を柔軟に展開する上での支障となっている。校舎を建て替えるにあたっては普通教室と特別教室を一体的に利用できる教室配置としてほしい」という意見があった。

(2) 南校舎について

南校舎（昭和 43 年建築）は築 50 年以上の建物であり、管理棟としての機能を併せ持つ本館とともに、普通教室棟としての役割を果たしている。

令和 7 年度は、3、4 年生の各 2 クラスと特別支援学級 1 クラスが南校舎に、1、2、5、6 年生の各 2 クラスと特別支援学級 2 クラスが本館に配置されているが、学年によって校舎が異なることで、学年間での縦割りでの教育活動等において、支障が生じている。また、海田小学校の校舎建替にあたり、海田西中学校区学校運営協議会内に設置した検討部会においても「学年によって校舎が分かれていると、学年横断的な教育活動を実施する上で支障がある。校舎を建て替えるにあたっては、全学年がまとまりのある校舎としてほしい」という意見があったほか、海田小学校の保護者アンケートにおいても、保護者から「新校舎は学年間の行き来がしやすく、他学年と交流を図りやすい環境づくりをしてほしい」といった意見があった。

(3) 給食室について

給食室（平成 15 年建築）は、自校給食を担う施設であり、築 20 年以上の建物であり、平成 24 年度に耐震補強工事を実施したことにより、耐震性の強化を図っているものの、屋根や外壁の広範囲で劣化が進行している。

本館等を現校舎の位置に建て替える場合、児童の学ぶ場所を確保するため、仮設校舎を建設する必要があるが、昨今の物価上昇により、仮設校舎の建設コストも上昇している。こうしたことから、仮設校舎の建設を回避するため、グラウンド側に新校舎を建設することも想定されるが、その場合、現給食室から新校舎までの動線が長くなるため、給食の運搬に支障が生じる。

(4) 体育館について

体育館（昭和 51 年建築）は築 50 年以上の建物ではあるものの、平成 24 年度に耐震補強工事、令和 2 年度に大規模改修工事を実施したことにより、屋根・屋上防水、外壁をはじめ、建物の安全上・機能上問題は生じていない。

なお、避難所機能の強化及び児童の熱中症対策のため、今後、空調整備を整備する予定である。

(5) プールについて

プールは平成 26 年度に建て替えて以降、定期的な点検を通じて、良好な状態を保っており、建物の安全上・機能上問題は生じていないが、近年の猛暑や急激な天候の変化などにより、計画どおり水泳授業が行えないケースが増えてきている。

(6) クラブハウスについて

クラブハウス（昭和 56 年建築）は築 40 年以上の建物であり、地域クラブや地域住民の活動の場所となっている。

屋根防水の修繕工事を行うなど、部分的に修繕を行っているものの、大規模改修は行っておらず、老朽化が進んでいる。

(7) 社会体育倉庫について

社会体育倉庫（昭和 51 年建築）は築 50 年以上の建物であり、これまで大規模改修は行っておらず、老朽化が進んでいる。

(8) 児童クラブハウスについて

児童クラブハウス（平成 15 年建築）は築 20 年以上の建物であり、これまで大規模改修は行っておらず、老朽化が進んでいる。また、放課後児童クラブ利用者の増加により、当該施設に加えて、本館 1 階の余裕教室も活用しているため、職員が分かれて各部屋の対応を行う状況が見られるなど、運営上の課題がある。

(9) 消防庫・備蓄倉庫について

消防庫・備蓄倉庫（平成 14 年建築）は築 20 年以上の建物であり、これまで大規模改修は行っておらず、老朽化が進んでいるものの、建物の安全上・機能上問題は生じていない。

海田小学校の敷地内には上記(1)～(9)の建物があるが、昨今の物価上昇傾向を踏まえると、将来的にこれらを建て替える場合には、現状見込まれるコストと比較して更なるコストの増加が見込まれる。

5 基本構想策定の前提条件

(1) 海田町の位置・概要

本町は広島県の南西部、広島湾岸の東部に位置し、広島市と隣接している。県内 23 市町のうち 2 番目に小さな自治体であるが、町を貫流する瀬野川をはじめ、海、山地、丘陵地、平地と多彩な地形条件を有するまちである。平坦地を中心に市街地が形成され、規模的にも地域空間的にもコンパクトなまちとなっている。

交通条件として、広域的な立地状況をみると、広島市、呉市、東広島市の間に位置し、これら 3 市をつなぐ交通の結節点になっている。また、東広島・安芸バイパスや広島南道路、東広島呉自動車道の開通に伴い、本町は広島呉道路と合わせた三角状の広域道路網の一部に組み込まれ、交通結節機能と利便性がさらに高まっている。

加えて安芸地区の地域拠点、商業、工業の拠点、さらには広島市を中心とする広域都市圏構想の一翼を担う地域として、今後もその機能を拡充していくことが求められている。

(2) 海田地区の現状と課題

海田地区は、J R山陽本線、同呉線や主要幹線道路が交錯する交通結節点で、公共公益施設、業務施設等の都市機能の集積など、本町の中心地としての役割を担っている。

地区の北側は、旧山陽道（西国街道）の宿場町の古い町並み残り、旧千葉家住宅や織田幹雄スクエア、日浦山などの地域資源が存在しているが、狭あいな生活道路、木造住宅の密集といった問題を抱えている。

地区の南側は、商業・業務施設と住宅地により市街地が形成されているが、これらの市街地は鉄道により分断されており、都市活動、都市生活上の制約となっている。こうしたことから、海田地区の整備にあたっては、**本町の中心地にふさわしい都市機能の整備、連続立体交差事業、幹線道路等の都市基盤の整備、居住環境の向上などにより、都市機能の強化、魅力あるまちづくりを進めていく必要がある。**

また、防災面では、北側に山地部があり、木造住宅の密集、生活道路が狭あいであることから、防火対策や土石流の発生リスクを踏まえた**防災体制の構築が必要である。**



6 海田小学校周辺のまちづくりの方向性

令和5年3月に策定した「海田町中心拠点まちづくり基本構想」では、第5次海田町総合計画の地区別計画で掲げる海田地区の将来像である「歴史・文化の継承とさらなるにぎわいを創出するまちづくり」の実現に向けて、4つの基本方針（①海田市駅周辺の拠点性の向上、②まちなかの回遊まちづくり、③安心して暮らせる居住環境づくり、④多様な魅力による集客とまちの活性化）を示している。

中心拠点内では、令和4年度末の東広島・安芸バイパスの全線開通をはじめ、今後、広島市東部地区連続立体交差事業や広島南道路の供用などにより、都市構造が大きく変化する見込みである。こうした変化も見据えつつ、海田地区の将来像の実現に向けて、4つの基本方針に基づいて、中心拠点のまちづくりを進めるにあたり、町民・事業者・行政が、相互の信頼関係や協力関係のもと、お互いの特性や能力を発揮しながら、それぞれの役割を担い合い、連携・協力して主体的にまちづくりに取り組んでいくことで中心拠点の更なる活性化を図ることとしている。

7 海田小学校の沿革等

(1) 児童数の推移

児童数は、昭和25年の680名から、35年に950名、45年に1,300名、47年には1,500名を超えた。年々増加する児童数を背景に、昭和48年に西海田小学校（現海田西小学校）、昭和54年に南海田小学校（現海田南小学校）が分離新設されたことに伴い、通学区域の一部も分離された。令和8年度の児童数は、382名（令和8年5月1日現在）となっている。

(2) 通学経路

通学区域は瀬野川・JR山陽本線、同呉線・一般国道2号で南北に2分され、通学する児童の安全性の確保が学校及び保護者の悩みとなっている。さらに先述の東広島・安芸バイパスが開通し、幹線道路の交通量の増加から交通安全の確保が一層の課題となっている。

(3) 海田小学校敷地内施設の主な整備履歴

本館	平成22年度	構造体耐震補強
	平成26年度	空調設備新設（普通教室）
		トイレ改修
		給排水管改修
	令和2年度	校内無線LAN新設
特別教室棟	平成26年度	構造体耐震補強
		空調設備新設（特別教室）
		大規模改修（外壁、外壁建具） ※非構造部材耐震補強含む。
		給排水管改修

	令和 2 年度	校内無線 LAN 新設
南校舎	平成 22 年度	構造体耐震補強
		大規模改修（内装、内装建具）
	平成 26 年度	空調設備新設（普通教室）
	令和 2 年度	校内無線 LAN 新設
	令和 5 年度	トイレ改修
給食室	令和 5 年度	空調設備更新
		換気設備更新
体育館	平成 24 年度	構造体耐震補強
	令和 2 年度	大規模改修（屋根防水、外壁、外部建具、トイレ） ※非構造部材耐震補強含む
プール	平成 26 年度	プール及び附属棟の建替え
クラブハウス	—	—
社会体育 倉庫	—	—
児童クラブハ ウス	令和 元 年度	内装・建具・家具・照明改修 （空調設備新設含む）

8 令和 8 年度海田小学校 学校経営計画等

(1) 経営理念

心と心が響き合う学校

(2) 教育目標

感性を磨く ～気付き 考え 行動する 海小っ子の育成～

【確かな学力（気付く子の育成～メタ認知）】

- ・基礎・基本の徹底
- ・対話を重視した問題解決的な道德教育
- ・読書活動の充実
- ・家庭学習の充実（復習・予習・自主学習）

【豊かな心（考える子の育成～コミュニケーション力）】

- ・「挨拶日本一」への取組
- ・道德的実践力を発揮させる特別活動
- ・組織的な生徒指導の充実
- ・特別支援教育の充実

【健やかな体（行動する子の育成～主体性）】

- ・命を守る活動
- ・運動に親しむ機会の充実
- ・健康教育の充実
- ・食育の充実

【信頼される学校（可能性を信じ、学び続ける教職員）】

- ・危機管理の徹底
- ・情報発信（各種たよりの工夫・アプリによる情報共有）
- ・企画運営委員会・分掌部会・学年主任会・学年会・S S T・終会等による共有と行動目標の確認
- ・終会時におけるミニ研修の実施
- ・適切なタイムマネジメントによる働き方改革
- ・全教職員による日常的な整理整頓や安全点検
- ・教育相談活動の充実

(3) 学校の強み・特長（特色ある教育活動）

- ・学年や全校児童による合唱・合奏を保護者や地域住民に披露する「ドミノ発表会※1」では、子供たちが練習を通じて、大きな集団の中で感性を磨き、互いに協力し合いながら、参加する一人一人の心に響くステージを創り上げようとする姿がみられるなど、経営理念「心と心が響き合う学校」に沿った、活気ある教育活動を展開している。

※1 ドミノ発表会…

- ・海田小学校は、日本人初の金メダリストである織田幹雄氏の出身校であり、その学区は瀬野川、日の浦山等の自然に恵まれ、西国街道（旧山陽道）の宿場町の古い町並みや旧千葉家住宅といった伝統的建造物が残っている。
また、海田町の中心拠点内にあり、海田町役場や海田税務署といった官公庁や商業店舗が集積するなど、地域資源が豊富である。授業では、これらの地域資源を、子供たちが考えたイベントや、町探検で利活用するなど、実社会との関わりを通じた教育活動を展開している。

9 海田小学校の児童数・学級数の将来見通し

(1) 児童数の将来見通し

ア 将来人口

将来人口は、第5次海田町総合計画後期基本計画の数字を用いる。
海田小学校区における将来人口の推計結果は、次表のとおりである。

【表 将来人口】 (人)

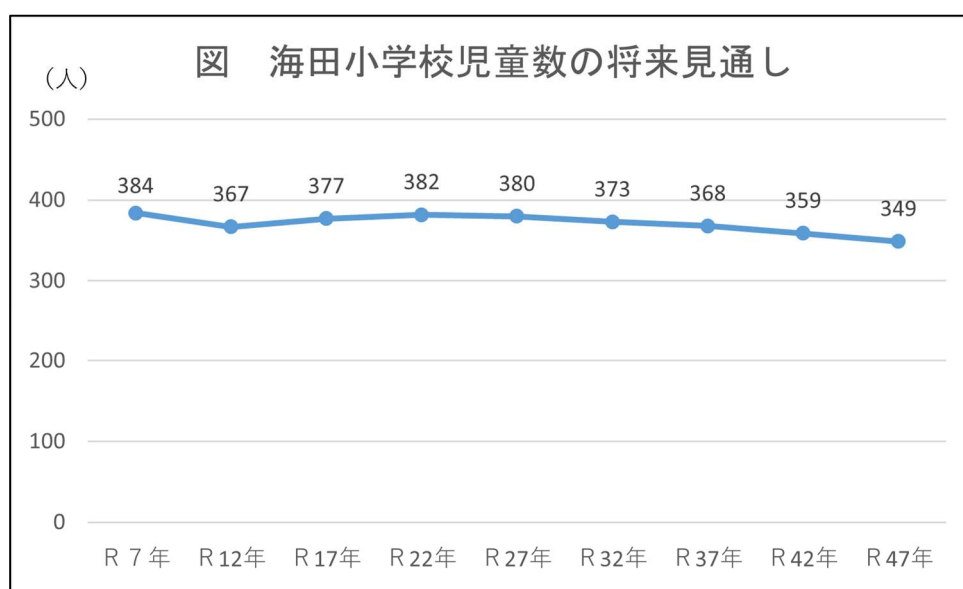
	推 計								
学区／年度	R7 年	R12 年	R17 年	R22 年	R27 年	R32 年	R37 年	R42 年	R47 年
	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
海田	8,711	8,835	8,828	8,739	8,631	8,542	8,444	8,323	8,188

イ 児童数の将来見通し

将来人口をもとに、令和7年度の実績を踏まえて児童数の将来見通しを整理すると次表のとおりである。児童数は令和22年度までは増減があるものの、令和27年度以降は減少するものと見込まれる。

【表 児童数の将来見通し】 (人)

	実績	推 計							
児童数／年度	R7 年	R12 年	R17 年	R22 年	R27 年	R32 年	R37 年	R42 年	R47 年
	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
児童数	384	367	377	382	380	373	368	359	349



(2) 学級数の将来見通し

児童数の将来見通しをもとに、学級数を推計すると次表のとおりである。

学級数は、今後 15～16 学級が続く見通しである。

【表 学級数の将来見通し】

(学級)

学級／年度	実績	推 計							
	R7 年	R12 年	R17 年	R22 年	R27 年	R32 年	R37 年	R42 年	R47 年
	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065
通常	12	12	12	12	12	12	12	12	12
特別支援	3	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4	3～4
合計	15	15～16	15～16	15～16	15～16	15～16	15～16	15～16	15～16

推計は、次の方法により行った。

- ① 児童数について、1 学年平均値を算出
・ (例) R12 年 : $367(\text{人}) \div 6(\text{学年}) = 61(\text{人} / \text{学年})$
- ② ①で算出した 1 学年平均児童数を、1 学級児童数 (35 人 / 学級) で除して学級数を算出 (整数切り上げ) した。
・ (例) R12 年 : $61(\text{人} / \text{学年}) \div 35(\text{人} / \text{学級}) \approx 2(\text{学級}) \times 6(\text{学年}) = 12(\text{学級})$
- ③ 特別支援学級数は、直近 (R 2 年～R 7 年) の実績を踏まえ、3～4 学級とした。
- ④ ②と③の合計値を学級数とした。
・ (例) R12 年 : $12(\text{学級}) + 3 \sim 4(\text{学級、特支}) = 15 \sim 16(\text{学級})$

10 学校職員、保護者等からの校舎建替に係る意見

基本構想策定の参考とするため、海田小学校の保護者、教職員を対象とするアンケート調査を実施するとともに、学校関係者からのヒアリングを通じて校舎等に関する意見等を収集した。

【アンケート調査期間】

令和8年3月6日（金）～令和8年3月9日（月）

【アンケート調査対象】

保護者 302名（1年～6年の長子数）

海田小学校の教職員 30名

【アンケート質問項目】

(1) 海田小学校を建て替える際に最も大切にしたい項目を3つお選びください。

- 1 一人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室等の整備
- 2 多目的スペースの活用による多様な学習活動へ柔軟に対応できる施設づくり
- 3 読書・学習・情報のセンターとなる学校図書室の充実
- 4 子どもたちの居場所となる温かみのあるリビング空間づくり
（木材の利用、小スペース・コーナー等の空間整備）
- 5 健康的で快適な学習環境の整備
- 6 防災性・防犯性など、安全・安心な教育環境の確保
- 7 地域の避難場所として利用できるように創意工夫された施設整備
- 8 脱炭素社会の実現を目指した環境に配慮した学校施設整備（ソーラーパネルや省エネ設備等）
- 9 広く地域住民が利用したり、児童と交流したりすることができる施設づくり
- 10 バリアフリー化された施設づくり（エレベーター・スロープ等）
- 11 その他（ ）

(2) 海田小学校を建て替えるに当たり、配慮してほしい教室等を3つお選びください。

- | | | |
|--------|---------|--------------|
| 1 教室 | 8 保健室 | 15 階段 |
| 2 理科室 | 9 職員室 | 16 昇降口（児童玄関） |
| 3 音楽室 | 10 会議室 | 17 エレベーター |
| 4 家庭科室 | 11 応接室 | 18 児童用更衣室 |
| 5 図工室 | 12 多目的室 | 19 その他（ ） |
| 6 図書室 | 13 トイレ | |
| 7 放送室 | 14 廊下 | |

(3) 自由記述

その他「〇〇な教育環境で授業を受けさせてみたい。」、「海田小学校の〇〇なところを引き継いでほしい、残したい。」などのご意見を伺う。

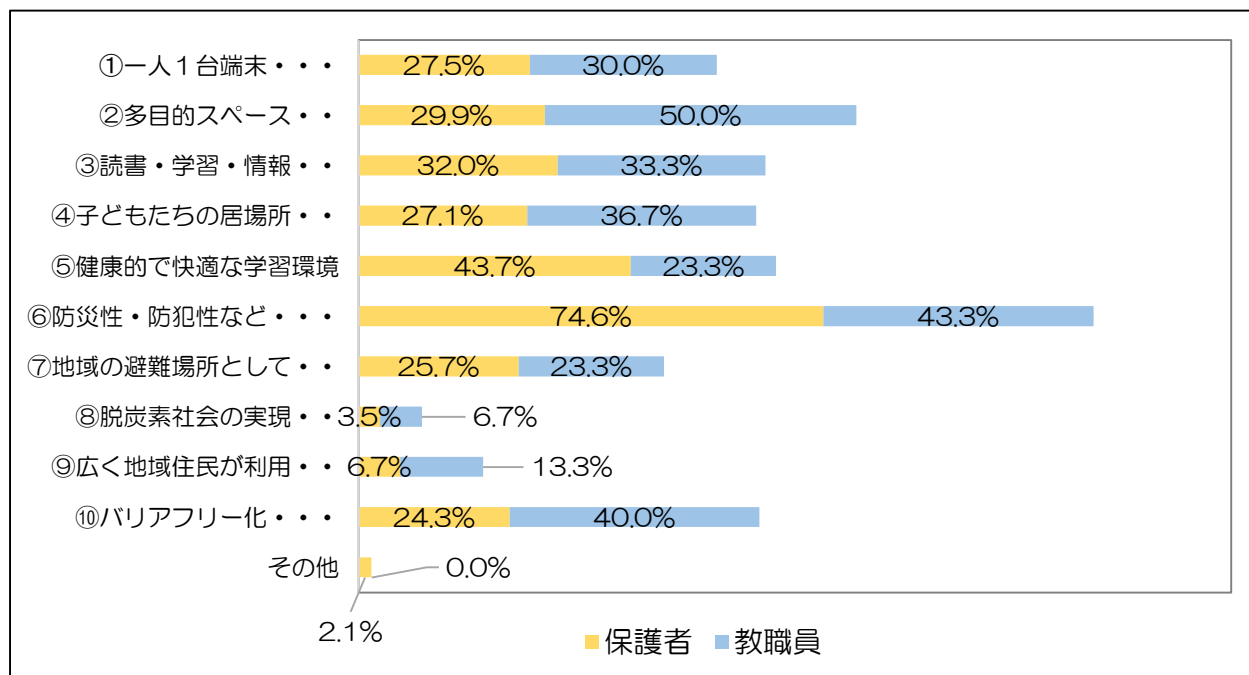
【アンケート回収結果】

対象	対象人数	有効回答数	回収率
保護者	302	284	94.0%
教職員	30	30	100%

《(1) 海田小学校を建て替える際に最も大切にしたい項目》

内容	保護者		教職員	
	回答数	割合(※)	回答数	割合(※)
①一人1台端末環境等に対応したゆとりのある教室等の整備	78	27.5%	9	30.0%
②多目的スペースの活用による多様な学習活動へ柔軟に対応できる施設づくり	85	29.9%	15	50.0%
③読書・学習・情報のセンターとなる学校図書室の充実	91	32.0%	10	33.3%
④子どもたちの居場所となる温かみのあるリビング空間づくり (木材の利用、小スペース・コーナー等の空間整備)	77	27.1%	11	36.7%
⑤健康的で快適な学習環境の整備	124	43.7%	7	23.3%
⑥防災性・防犯性など、安全・安心な教育環境の確保	212	74.6%	13	43.3%
⑦地域の避難場所として利用できるように創意工夫された施設整備	73	25.7%	7	23.3%
⑧脱炭素社会の実現を目指した環境に配慮した学校施設整備 (ソーラーパネルや省エネ設備等)	10	3.5%	2	6.7%
⑨広く地域住民が利用したり、児童と交流したりすることができる施設づくり	19	6.7%	4	13.3%
⑩バリアフリー化された施設づくり(エレベーター・スロープ等)	69	24.3%	12	40.0%
その他	6	2.1%	0	0.0%
回答数計	844		90	

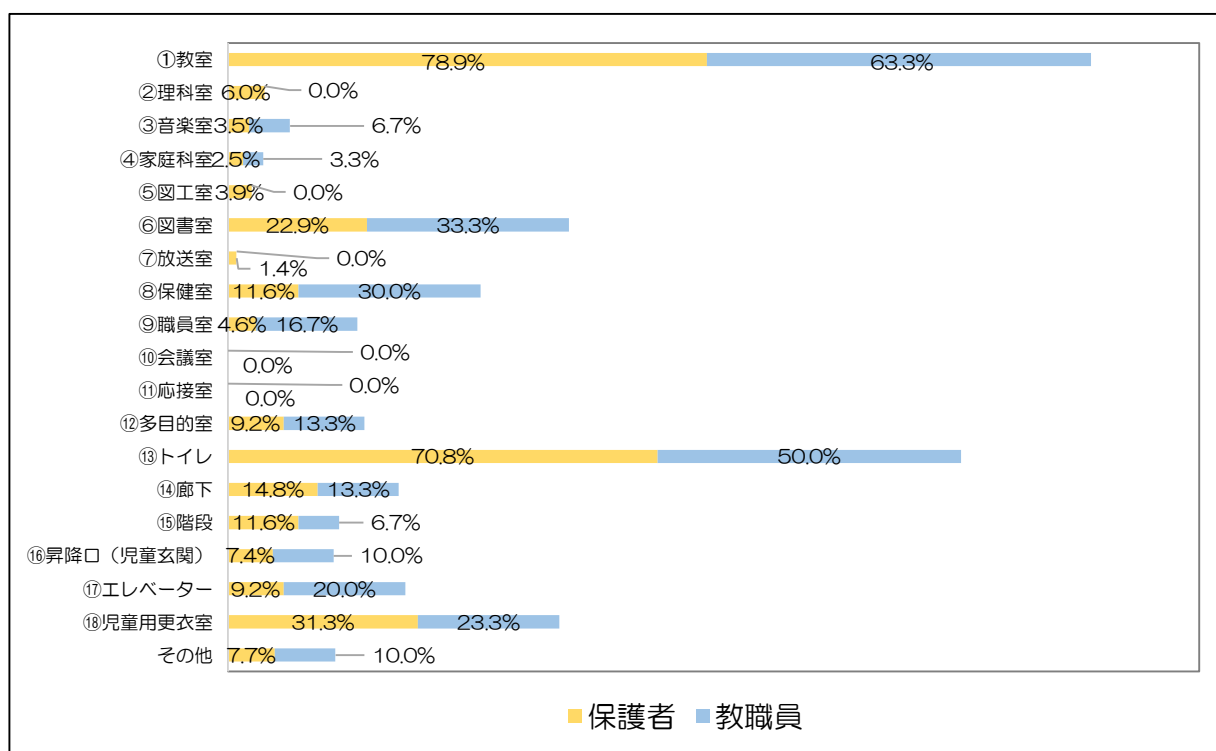
※回答者(保護者 284 人、教職員 30 人)のうち、項目を選択した者の割合。



《(2) 海田小学校を建て替えるに当たり、配慮してほしい教室等》

内容	保護者		教職員	
	回答数	割合(※)	回答数	割合(※)
①教室	224	78.9%	19	63.3%
②理科室	17	6.0%	0	0.0%
③音楽室	10	3.5%	2	6.7%
④家庭科室	7	2.5%	1	3.3%
⑤図工室	11	3.9%	0	0.0%
⑥図書室	65	22.9%	10	33.3%
⑦放送室	4	1.4%	0	0.0%
⑧保健室	33	11.6%	9	30.0%
⑨職員室	13	4.6%	5	16.7%
⑩会議室	0	0.0%	0	0.0%
⑪応接室	0	0.0%	0	0.0%
⑫多目的室	26	9.2%	4	13.3%
⑬トイレ	201	70.8%	15	50.0%
⑭廊下	42	14.8%	4	13.3%
⑮階段	33	11.6%	2	6.7%
⑯昇降口(児童玄関)	21	7.4%	3	10.0%
⑰エレベーター	26	9.2%	6	20.0%
⑱児童用更衣室	89	31.3%	7	23.3%
その他	22	7.7%	3	10.0%
回答数計	844		90	

※回答者(保護者 284 人、教職員 30 人)のうち、項目を選択した者の割合。



《(3) 自由記述や学校関係者への意見聴取でいただいた校舎等に対する意見》

(1) 校舎全体

- ☐ 本館、南校舎及び特別教室棟が分かれているため、校舎を一つにして効率のいい動線を確保する。
- ☐ 異学年による交流・活動を行える多目的スペースを整備する。
- ☐ 快適に学習できる環境を整備する。
- ☐ エレベーターやスロープの設置など、バリアフリーに配慮する。
- ☐ 児童が植物や生き物と触れ合うことのできる空間を整備する。
- ☐ 長期的に校舎を使用する観点から、施設の維持管理が容易となるように配慮して施設を整備する。
- ☐ 児童がリラックスして過ごせる空間（「いいじかんのへや※2」など）を整備する。

※2 いいじかんのへや…

- ☐ 地域の避難所として、災害に対する防災機能を強化する。
- ☐ 子どもの目線に立った施設整備をする。
- ☐ 木造、木質化を行い温かみのある素材を用いた校舎とする。
- ☐ 食育活動や食を通じた児童間の交流ができる空間を整備する。
- ☐ 卒業作品など、思い出の品にも配慮する。

(2) 教室

- ☐ 教室との間仕切りをはずして広い空間を確保できたり、教室を間仕切りで仕切って、狭い空間を確保できたり、用途に合わせて空間をフレキシブルに活用できるような整備をする。
- ☐ 多様な活動を学年単位で実施可能な空間を整備する。
- ☐ 風の方向や自然光を考慮して、窓・教室を配置する。
- ☐ 児童がのびのびと教育を受けられるような教室を整備する。

(3) 学校図書館

- ☐ 児童が読書に親しむ空間を整備する。
- ☐ 児童が主体的に学ぶ学習の場や情報を収集・活用する場としての機能を充実させる。

(4) 音楽室

- ☐ ドミソ発表会等の表現活動を行える空間や環境を整備する。

(5) トイレ

- ☐ 衛生的で快適なトイレを整備する。
- ☐ 便座の洋式化、床のドライ化等を取り入れたトイレを整備する。
- ☐ 男女別の更衣室、休憩室を整備する。

(6) 職員室

- ☐ 教職員の連携を強化するため、校長室、職員室、事務室、保健室を近接して整備する。

(7) グラウンド

- ☐ 自然豊かで、視認性の高い整形なグラウンドを整備する。
- ☐ 現状と同程度の広さのグラウンドを整備する。

(8) 防犯対策

- ☐ 防犯カメラを整備するなど、防犯機能の確保に十分配慮する。
- ☐ 安全管理上、学校エリアと地域エリアをゾーニングする。

(9) 伝統の継承

- ☐ 150年の伝統や織田幹雄氏の偉業を感じられる空間を整備する。

(10) 地域交流

- ☐ 地域と学校の交流・協働する共創空間を整備する。
- ☐ 地域コミュニティ形成の核となる学校を整備する。
- ☐ 地域から愛される海田小学校を継承する。

11 児童からの校舎建替に係る意見

(1) 海田町立海田小学校校舎建替についての意見書

令和8年1月に開催された「こども議会」で海田小学校代表のこども議員から、各学年で校舎建替に関する考えをまとめた意見書を提出したい旨の要望があり、令和8年3月17日、児童代表から町長に意見書が手交された。

意見書は、生活科や総合的な学習の時間で学んだ内容を踏まえて、各学年から理想の校舎像を6年生が聞き取り、まとめた。

主な意見は、以下のとおり。

【1年生】

- ☐ 昔遊びの部屋や遊び道具を作れるような広いスペースがほしい。
- ☐ 生き物や植物を育てる場所、大きな水槽等があるといい。
- ☐ 図書室やいい時間の部屋を広くしてほしい。
- ☐ エレベーター、エスカレーターがほしい。
- ☐ 手を洗う水をお湯にしてほしい。

【2年生】

- ☐ 自然に触れることができる場所、ビオトープ等をつくりたい。
- ☐ ランチルーム、食堂がほしい。
- ☐ 避難経路がわかるような学校の地図を掲示する。
- ☐ 音楽に触れるスペースがほしい。
- ☐ 野菜を育てる場所

【3年生】

- ☐ 階段の段差（高さ）を低くしたり、手すり・スロープをつけたりする。半分階段・半分スロープの場所もあるとよい。
- ☐ 教室出入口の段差をなくす。
- ☐ トイレのドアをスライドドアにする
- ☐ 黒板の上下移動ができるようにしてほしい。
- ☐ 点字や外国語で言葉を表記する。

【4年生】

- ☐ 体育館に冷暖房をつけてほしい
- ☐ 手洗い場の下に車椅子が入れる空間をつくってほしい。
- ☐ 掲示板をコルクボード仕様のものだけではなく、ホワイトボードのものも取り入れてほしい。
- ☐ ソーラーパネル・蓄電器を設置する。
- ☐ 防災倉庫を使いやすくする。

【5年生】

- ☐ 体験活動がしやすい場所がほしい（畑、田んぼなど）。
- ☐ 被服室と調理室の位置と環境を改善してほしい。
- ☐ グループ会議ができるような教室より広い部屋がほしい。（壁にホワイトボードがあったり、パーテーションで区切れたりする。）

【6年生】

- ☐ 地域の人でも使える資料館をつくりたい。
- ☐ 木・植物を増やす。ひまわりのグリーンカーテンをつくる。
- ☐ ソーラーパネルを設置する。
- ☐ 海田町の有名人を知る部屋をつくる。
- ☐ 織田幹雄さんの飛んだ距離や足跡を廊下につける。

(2) 町長と児童代表によるランチミーティング

町長と児童代表 13 名によるランチミーティングを行い、校舎等に関する意見等を収集した。



【意見書提出の様子】



【ランチミーティングの様子】

《主な意見》

ア 校舎全体

- ☐ 現在の普通教室は本館と南校舎で分かれており、学年が分断されているため、新校舎は1つにする。
- ☐ 特別教室棟と普通教室がある本館、南校舎は渡り廊下でつながっているが、動線が長く、教室移動に時間がかかるため、新校舎は1つにする。
- ☐ 開放廊下だと、雨が降った時に滑りやすく危険なため、屋内の廊下にする。
- ☐ 手洗い場の蛇口を自動化し、お湯も出るようにする。
- ☐ エレベーターや自動ドア、スロープを設置するなど、バリアフリーに配慮する。
- ☐ 案内板には点字や外国語での表記を併記する。
- ☐ 教室の照明の LED 化や太陽光パネル、グリーンカーテンの設置など省エネに配慮する。
- ☐ 児童の製作品を展示するスペースを教室以外の場所にも確保する。
- ☐ 昇降口は靴の履き替えがスムーズにできるよう、広いスペースを確保する。

イ 教室

- ☐ 雨天時でも、室内で遊ぶことができる空間を整備する。
- ☐ 大人数でグループ活動や発表できる広い空間（廊下含む）を整備する。
- ☐ 上下に動かすことができる黒板を整備する。
- ☐ 教室出入口の段差をなくす。
- ☐ 教室内の音が学校外に漏れてうるさくならないよう、防音に配慮する。

ウ 地域交流、伝統・歴史の継承

- ☐ 海田小学校出身の有名人をはじめ、海田小学校の歴史を知ることができ、地域住民の方も利用可能な展示・交流スペースを整備する。
- ☐ 織田幹雄氏がオリンピックで金メダルを獲得した時の跳躍距離や足跡を廊下にペイントする。

エ 学校図書館

- ☐ ソファを置くなど、くつろいで読書を楽しむことができる空間を整備する。

オ グラウンド等

- ☐ 低学年の児童が安心して遊ぶことができる専用スペースを確保する。
- ☐ 鬼ごっこや球技など、用途に応じて利用できる専用スペースを確保する。
- ☐ 必要に応じて遊具にラバーをつけるなど、安全に配慮する。

カ その他

- ☐ 「いいじかんのへや」のような、くつろいだり、海田小学校の歴史等について知ることができる部屋を新校舎にも整備してほしい。
- ☐ 給食の食缶運搬時の転倒リスクを踏まえて、ランチルームを整備する。
- ☐ 生き物を育てたり、自然に親しむことができるビオトープを整備する。
- ☐ 卒業制作など、思い出の品にも配慮する。

12 海田小学校校舎建替に係る整備コンセプト・整備方針

(1) 整備コンセプト

海田小学校校舎の整備にあたっては、学校施設整備の基本理念をベースとしつつ、海田小学校の強み・特長や、総合計画の地区別計画（海田地区）の将来像をコンセプトに据えて、特色・魅力ある学び舎づくりを進めていく。

《整備コンセプト》

海田小学校の強み・特長

（表現活動を軸とした活力ある教育活動・伝統や文化に根差した地域との交流）

海田地区の将来像

（歴史・文化の継承とさらなるにぎわいを創出するまちづくり）

を踏まえた 学び舎づくり

(2) 海田小学校校舎建替に係る整備方針

建替対象施設

現在、海田小学校敷地内にある施設（本館、南校舎、特別教室棟、給食室、クラブハウス、社会体育倉庫、児童クラブハウス、体育館、プール及び消防庫・備蓄倉庫）について、どの施設を建替対象とするかを検討しております。

校舎建替検討部会の皆様のご意見も踏まえながら、方針案を検討したいと考えております。

今後、方針案が決定次第、皆様へご説明させていただきます。

基本理念：つくる…子供みんなの居場所をつくる

整備コンセプト：表現活動を軸とした活力ある教育活動

① 心と心が響き合う活気ある学び舎づくり

ア 表現する力を育む空間づくり

○児童の表現力を育む空間の整備 **重点**

【イメージ例】

- ・学年や全校児童による合唱・合奏を保護者や地域住民に披露する「ドミソ発表会」等の表現活動を行える空間や環境を整備する。
- ・学習成果や自主活動の発表や展示ができる空間を整備する。
- ・学年集会や特別活動などの様々な学習活動に対応したスペースを整備する。

○多目的空間・児童クラブとつながる学校図書館（読書・学習・情報センター）の整備 **重点**

【イメージ例】

- ・多目的な空間と一体的に使える学校図書館を全学年の児童がアクセスしやすい場所に配置し、館内に児童がリラックスして読書を楽しむスペースを整えるなど、児童の学びの拠点として学年を超えて様々な児童が集い、学び合う交流の場を整備する。
- ・児童クラブ利用児童が多目的な空間や学校図書館でも多種多様な活動や読書活動ができるよう、児童クラブからのアクセスも考慮する。

イ 多様な学習形態に対応した空間づくり

- 多様な学習活動を展開できる教室空間の整備
- 設備や家具の工夫による多様な学習活動の展開・教室環境の充実
- 多様な教育的ニーズのある児童に対応した学習環境の整備

ウ 居心地のよい快適な空間づくり

- 快適で温かみのある空間の整備
- 健康的で過ごしやすい学習・生活環境の整備
- 学校における働き方改革を推進し、教職員のパフォーマンスを最大化するための執務空間の整備

エ 社会環境の変化に対応可能な柔軟性の高い施設整備

- 変化に対応可能な柔軟性のある空間構成
- 長期的な視点に立った、維持管理のしやすい施設整備

基本理念：つづく…学校の伝統や歴史がつづく

整備コンセプト：伝統や文化に根差した地域との交流

② 伝統や文化が息づく学び舎づくり

ア 地域との連携を継承し、愛され続ける学校施設の整備

○地域と共に育んできた学校の伝統や歴史を継承

重点

【イメージ例】

- ・これまで海田小学校が築いてきた地域との関係が、より深められるような校舎を目指す。
- ・地域クラブや地域住民の活動の場所である生涯学習施設と学校が活発に相互交流できる空間を整備する。整備に当たっては、①ア『児童の表現力を育む空間』と一体的利用が可能となるような設えとし、学校エリアと地域エリアを適切にゾーニングする。

イ 伝統を継承する空間づくり

○学校や地域の歴史・伝統を未来へつないでいく場の整備

ウ 探究的な学びを促す教育環境の整備

○デジタル機器の活用等による、多様化する社会に対応した学習環境の整備

基本理念：つながる…地域の未来につながる

整備コンセプト：歴史・文化の継承とさらなるにぎわいを創出するまちづくり

③ 地域と共に未来を築く学び舎づくり

ア 地域への愛着を育み、地域の輪へとつながる学校づくり

○シビックプライド〔まちへの誇りと愛着〕を育む施設整備

重点

【イメージ例】

海田町内における近年の公共建築物や旧千葉家住宅等の歴史的建築物との統一感をもたせつつ、地域景観との調和を踏まえた施設外観とし、シビックプライド〔まちへの誇りと愛着〕を育むよう、海田らしさを随所に感じられる施設整備を目指す。

○学校と地域の連携・協働によるにぎわいを創出する空間の整備

イ 災害に備えた学校施設の整備

○避難所としての防災機能の強化

13 想定スケジュール

項目/年度	R7			R8			R9			R10			R11			R12			R13		
基本構想																					
基本計画																					
基本設計																					
実施設計																					
建設工事																					
供用開始																					

海田小学校校舎建替検討部会名簿

	職名等	氏名（ふりがな）
1	海田小学校校長	高木 和希（たかき かずき）
2	海田小学校教諭	野本 麻衣（のもと まい）
3	海田小学校PTA会長	小沢 豊（こざわ ゆたか）
4	海田西中学校PTA会長	長野 達也（ながの たつや）
5	海田小学校区地域代表	堂免 寛（どうめん ひろし）
6	海田小学校区地域代表	乗越 千穂子（のりこし ちほこ）
7	教育長	森山 真文（もりやま まふみ）
8	教育委員	林 孝（はやし たかし）
9	教育委員	米丸 禎宏（よねまる よしひろ）

【参考文献】

- ・文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について」最終報告（令和4年3月）
- ・文部科学省「学校施設等の整備・管理に係る部局横断的な実行計画の解説書」～学校施設を核としたまちづくりのた
めの手引き～（令和4年3月）
- ・文部科学省「小学校施設整備指針」（令和4年6月）
- ・文部科学省「教育振興基本計画」（令和5年6月）
- ・第5次海田町総合計画（令和3年3月）
- ・第5次海田町総合計画後期基本計画（令和7年12月）
- ・海田町教育大綱（令和8年2月）
- ・海田町学校施設長寿命化計画（令和3年2月）
- ・海田町都市計画マスタープラン（令和4年3月）
- ・海田町立地適正化計画（令和4年3月）
- ・海田町中心拠点まちづくり基本構想（令和5年3月）
- ・海田東小学校校舎建替基本構想（令和6年8月）

海田小学校校舎建替基本構想

令和8年●月

作成：海田町教育委員会

〒736-8601 広島県安芸郡海田町南昭和町14-17

TEL (082)-822-2135（文教施設整備室）

E-mail : bunkyo@town.kaita.lg.jp

